

肩腱板断裂・関節鏡視下手術

高度な低侵襲手術で早期社会復帰を実現

夜間痛や動作時痛などに 悩まされる肩腱板断裂

肩腱板断裂は、肩甲骨と上腕骨をつないでいる腱板が切れてしまうことをいいます。腱板は、肩甲骨から肩甲下筋、棘上筋、棘下筋、小円筋が上腕骨に向かって伸びています。

上腕骨に付着する時、その4つの筋が束になってできあがった腱が板のように見えるため腱板と名付けられました。

厚生労働省の2014年患者調査によると、腱板断裂をはじめとする肩の損傷の患者数は26万9千人で、65歳以上で63・6%を占めています。多くの場合、長い時間をかけて肩の腱板がすり減った結果、断裂が起きるため高齢者に少なくありません。

症状は、夜間痛や動作時痛などで、特に腕を上げたり下ろしたりする時の痛み

や引つ掛かりが多く、また、肘を脇から離す動作がしづらく力が入らないのも特徴です。

関節鏡視下肩峰下除圧術と 関節鏡視下腱板修復術

腱板が切れていても、時間経過とともに症状が軽快することが少なくなく、注射や理学療法などの保存療法が行われます。ただし、活動性の高い人で、受傷後症状がなかなか治らなかつたりする場合、手術が選択肢の一つとなります。

手術では、関節鏡を使った関節鏡視下肩峰下除圧術(ASD)や関節鏡視下腱板修復術(ARCR)などが行われます。

ASDは、肩峰を部分的に削って腱板表面のスペースを広げて肩の動きをスムーズにする手術です。ARCRは、そ

の糸で壊れた腱板を上腕骨に固定し、修復します。

直視下手術が6cm程度切開することに比べて、関節鏡視下手術は数カ所に1cm程度の傷が残るだけで済むため、患者にとって低侵襲な手術で早期社会復帰を実現できます。関節鏡は深部まで容易に侵

入できるため、正常な組織を傷つけることなく、高精度での確かな手術が可能です。

大分県

社会医療法人玄真堂
川島整形外科病院・かわしまクリニック



佐々木 聡明
日本整形外科学会認定
整形外科専門医

近年、肩腱板断裂に対する関節鏡視下手術の発展はめざましいものがあり、一部の一次修復不可能な広範囲断裂を除けば、ほぼ全ての肩腱板断裂に対して、関節鏡視下手術が可能です。しかし、他県に比べ大分県では関節鏡視下手術を行っている施設が少ない状況にあります。そのような中で微力ながら、大分県北地域の肩腱板断裂を持つ患者に対して、他県に行かずして関節鏡視下手術を含めた様々な治療が提供できるよう、日々の診療に携わっています。



川島整形外科病院
中津市宮夫17
〈診察時間〉
火・木・土 9:00~11:00 (予約制)
☎0979-24-0464
川島整形外科病院

かわしまクリニック
中津市宮夫11-1
〈診察時間〉
月~金 9:00~12:30
14:00~18:00
土 9:00~12:00
〈休日〉土午後、日、祝
☎0979-24-9855

肩腱板断裂

